



2024 春号 Vol.102



《表紙写真》つばきフォトコンテスト2023
《松山とつばき部門》グランプリ
「赤椿 咲く」別宮 省一

松山文化の土壌を築いたお殿さま
文化協会インフォメーション
松山の歴史（その六）
子規交交（第六回）

松山文化の土壌を

築いたお殿さま

参考文献／『愛媛子どものための伝記 久松・松平家の人々』愛媛県教育会 昭和62年、『愛媛県史 文学』愛媛県 昭和59年、豊田克文『久松定謨 松山藩最後のお殿様』（『凜として立つ』松山市教育委員会 平成23年）、『松山百点』vol.310、和田茂樹『久松定謨伯爵と正岡子規』（『星』16巻8号 平成6年）、高須賀康生『明治・大正期の松山市政』（『伊豫史談』293）ほか

芳醇な文化的土壌を持つ松山。それは松山藩の藩主たちによって持ち込まれ、花ひらいたものが数多くあります。

今に連なる松山文化を準備した久松松平家のお殿さまと、その文化的事績を紹介しましょう。



親藩の基礎を固めてタルトや素麺を伝える
松平 定行
松山藩松平家
初代藩主
天正15年(1587)～寛文8年(1668)

將軍家と華やかな人脈を持つ

松山藩の最初の城主は、勝山に城をかまえて城下町をグランドデザインした加藤嘉明で、次に入部したのは、近江蒲生家のプリンスだった蒲生忠知でした。ところが、忠知は天折してしまい、蒲生家はお家断絶の悲劇にみまわれます。

かわつて入部したのが、徳川家康の異父弟である松平定勝の次男、松平定行でした。定行の祖母が太の方、松平広忠に嫁いで家康を生んだのち、離縁され、久松俊勝に再嫁して生まれた子どもが、定行の父定勝だったのです。家康は定勝に松平姓を名乗り、葵の紋章を使うように命じて厚い信頼を寄せました。

伊勢桑名から松山へ転封を命じられたのは、寛永12年(1635)、定行48歳の時でした。当時はまだ強固な幕藩体制が確立されていなかったことから、松山に親藩を置くことで、四国の外様大名に「睨みを利用す」ためだったといわれます。

しかし、定行は外様大名の土佐藩にアドバイスをしたり土佐藩と幕府との仲介をしたりしています。この背景には、久松松平家と土佐山内家が婚姻関係を結んで深い関係にあったこと、將軍家に人脈のある定行が幕府の中樞に強力なパイプを持つていたことがありました。定行の松山転封が、外様への牽制以外の役割もあったのか、研究が待たれるところです。

タルトの餡は奄美産の砂糖か？

定行は殖産興業に尽力して、松山藩の基礎を固めました。具体的には久万山のお茶や松前の白魚、製紙業の奨励などがありました。長崎から製法を持ち帰ったといわれるタルトでしょう。

正保年間(1644～1648)のこと。定行は長崎港の異国船取扱の仕事を仰せつかり、長崎屋敷を与えられました。2隻の黒船が長崎に入港した時には、多くの軍船を率いて、九州諸大名たちとともに長崎で警戒にあたっています。

結局、紛争が起こることはなく、黒船は静かに引き揚げていきました。この黒船はポルトガルから派遣されたもので、ポルトガルがスペインから独立してブラガンス王朝が成立したことを伝え、鎖国令を出していた幕府に交易の再開を求めることが目的でした。

長崎赴任のとき、定行が賞味したのは、カステラにジャムが入った南蛮菓子でした。定行は製法を持ち帰ってジャムを餡にかえたタルトを着想しましたが、当時はまだ全国的に砂糖が作られていませんでした。ところが、薩摩にはサトウキビが伝わり奄美大島では砂糖が生産されてきました。定行の奥方が島津家の出であることから、薩摩より砂糖を取り寄せて餡を作りタルトに使ったのだろうという

話が残っています(久松定武は語る 昭和60年)。素麺の奨励も定行によるものでした。五色そうめん森川の先祖は、定行のお供をして桑名から松山に移住した商家で、「長門屋」の屋号で素麺の製造に従事したと伝えられています。

五色の素麺が誕生したのは、八代目長門屋市左衛門の時。彩り豊かな素麺を贈られた浄瑠璃作者の近松門左衛門は、松山の酒造家後藤小左衛門にあてたお礼状で、冬の遊糸のように見た目が美しく、よほどの珍客でなければお相伴しない、と絶賛するほど。また、幕府に献上すると、將軍吉宗はすこぶる賞賛したともいわれています。

このほか、伊予万歳は、定行が万歳太夫を上方から招いて、年始に上演させたのがはじまりだとされています。恐らくそれは知多万歳(尾張万歳)系で、太夫と才蔵が二人の掛け合いで行うものでしたが、いつの頃からか多人数でも賑やかに踊るようになり、実際の事件を題材にした演目も作られるようになりました。



「松山藩異国船年番図」。長崎警備の際の陣立てを描いたもの。(松山市立子規記念博物館所蔵)

伊予万歳は明治に入って衰退するものの、松山で伝承していた澤田亀吉が東京の旧藩主久松家に呼ばれて披露すると好評を博し、息を吹き返して中予各地に広まっていきました。

さて、定直は東野に「東野御殿」と呼ばれる竹垣で囲んだ周囲4kmの隠居所を



松山藩松平家 第四代藩主

文人氣質で、「俳句のまち」の素地を作る
松平 定直
万治3年(1660)〜享保5年(1720)

藩主を筆頭に蕉風俳諧を学ぶ

四代藩主になる定直は、親戚関係にある今治藩主の嫡男として誕生しましたが、嗣子のなかった松山藩三代藩主松平定長の養子となり、14歳の時、松山藩主の座につきましました。定直の治世は松山藩主の中で最も長く、47年に及んでいます。

時は文化の花ひらいた元禄時代(1688-1704)。定直は藩の財政を立て直すため、農政改革(定免制・地坪制)や波止浜塩田の開発を行うなど、すぐれた政治的手腕を発揮して藩政を安定させますが、同時に、儒学・国学、俳諧などの学芸を愛する文化人でもありました。

俳諧好きの彼は、諸国を旅する松尾芭蕉のかわりに芭蕉の高弟榎本其角に入門しています。けれども定直はそれより前から俳諧を嗜んでおり、彼が作った「御船屏風」は、京都や大坂の貞門派・談林派の著名俳人の短冊を集めたものでした。

其角の弟子には江戸詰め松山藩医の青地彫業*1がおり、彼を介して、藩主定直や、江戸詰め松山藩家老の久松肅山も

建設しています。茶屋や堂宇、馬場や池を配し、回遊路を東海道五十三次に見立てるなど工夫を凝らした庭園で、定直はここで茶の湯をたしなみ、風雅に過ごしました。設計には裏千家の家元が関わっていたのではないかと考えられています。

其角に師事しました。定直は、三嘯・橘山・日新堂といった俳号を持つており、3人とも其角とすこぶる親しい関係にあったようです。其角の著した書には、肅山や彫業の句や文章が多数載っています。

また定直は、其角と並んで蕉門の双壁といわれた服部嵐雪も江戸藩邸に招き、藩士たちと一緒に句作に没頭したと伝えられています。

肅山も彫業もすぐれた俳人で、松山に戻った肅山は、江戸の新鮮な蕉風(松尾芭蕉の門流の作風)の俳諧を広めていきました。江戸の青地彫業宅に其角が芭蕉を案内して訪れて歌仙を巻いたことがありますが、石手寺の「花入塚」は、この時の歌仙一卷を納めて建立したものです。芭蕉の発句が刻まれており、蕉風を学ぶ当時の伊予俳諧人の悦びが表れています。

俳諧に夢中の藩主が参勤交代で江戸と松山を行き来したことは、俳諧に親しむ蕉風の醸成に大きな影響を与えました。藩主定直は、「俳句のまち」松山につながる素地を作った立役者だったのです。このほか、儒学や国学の大家を松山藩

に招聘して学問の振興を図ったり、仏教の保護育成のため黄檗宗の千秋寺を創建させたりしました。

裏千家と松山藩の蜜月関係

俳諧と茶の湯は深いかわりがあります。というのも、俳人たちはこそぞて茶の湯をたしなみ、わびさびの風流を求めたからです。藩主定直も、久松肅山や青地彫業も熱心に茶の湯に励みました。

茶道に精通していた定直は、元禄15年(1702)、裏千家五代家元の不休齋常叟を茶道奉行として松山藩に迎えました。常叟は松山藩への出仕をたいへん喜んだといえます。定直の面に常叟が贅を添えた掛軸が残っていますが、主従を越えた親密な交流を物語っています。

この常叟以降、明治維新までの170年間、裏千家の家元は代々松山藩の茶道奉行に召し抱えられることになりました。家元たちによって茶道のところが伝えられた松山では、武士から商人や豪農などにも伝播していき、財力を持った町方商人は、茶の湯を嗜むだけでなく、優品の茶器をきそって所有したのでした。

いっぽうで、松山藩は京都にある裏千家の茶室「今日庵」の修復などを援助しています。こうした藩政時代の裏千家との深い関係が、今日の松山における茶の湯の隆盛につながっていきました。

定直の時世は、藩政の経済的基盤をバックにして、松山に文化が勃興した時期でした。それは藩主みずから俳諧や学問に熱中したことが、推進力になったといえるでしょう。

なお、定直の在任中には世間を揺るがした赤穂事件が起こっています。吉良邸

襲撃のあと、義士たちは、細川家(熊本藩)、松平家(松山藩)、毛利家(長門藩)、水野家(岡崎藩)にお預けとなり、松山藩は大石内蔵助の長男大石主税を含む10名の身柄を預かって、三田の中屋敷(現・イタリア大使館付近)で世話をしました。

「細川の水の流れの清けれど ただ大海(毛利甲斐守)の沖(松平隠岐守)ぞ濁れる」という有名な狂歌が残っていますが、これは、細川家と水野家は、義士たちを丁重に扱ったと賛美し、毛利家と松平家は冷遇したと揶揄したものの。

たしかに熊本藩主は義士への思い入れがめつぼう強かったので、細川家は特別待遇でもてなしました。しかし、松山藩でも同情の念は強く、毎度の食事は二汁五菜で夜食を供するなど、厚遇といってもよい扱いです。

先の狂歌は比較において詠まれたのか、図りかねるところです。

*1日本初の物理学者を著した青地彫業は彫業の子孫



「御船屏風」定直が参勤交代の船中で愛用したといわれる小型屏風。京都・大坂の一流俳人30人に依頼した自筆短冊を貼りつけている。談林派の俳諧師で浮世草子作家・井原西鶴の短冊も。(個人蔵 松山市立子規記念博物館寄託資料)



子規たち輩出の基盤を作り、松山城を寄贈
久松平家
十五代当主
久松 定謨

慶応3年(1867)〜昭和18年(1943)

旧藩士子弟を支援する「常盤会」

明治元年に松平姓から久松姓に戻り、松山藩14代藩主松平定昭の養子となって久松家を継いだのは、血縁関係のある5歳の定謨でした。父となった定昭は、定謨が家督を継いだ明治5年に20代の若さで病没しましたが、祖父の勝成は健在で、彼は広い視野で世界の知識を習得すべきだと痛切に感じていたようです。

幼いころから東京で暮らしていた定謨ですが、松山藩主の跡継ぎたる自覚と責任感強く、旧家臣や旧領民の暮らしぶりを慮る青年に育ちました。その一つが旧藩士子弟への学資援助です。

明治10年代、育英団体を作って子弟の教育に力を入れる旧藩が次々と現れました。久松家でも明治16年「常盤会」を創設し、翌年から在京の貧しい旧藩士の子弟に、学資や教科書代を支給する育英事業を始めました。当時、政治の世界などでは薩長閥が幅をきかせ、幕府方の松山藩出身では立身出世が難しかったことから、前途有為の若者に最高の教育を受けさせ、中央での活躍を期待したのです。

第1回給費生の一人には正岡子規が選ばれました。子規はたいそう喜び、大学中退まで実に8年半もの間、常盤会の支援を受けています。

さらに定謨は、明治20年、私財を投じて本郷に常盤会の寄宿舎を建設し、給費

生たちの便宜を図りました。ここから子規のほか、高浜虚子、河東碧梧桐らの俳人、勝田主計(のち大蔵大臣)、桜井忠温(軍人、作家)など、綺羅星の如き人材が輩立っていました。

この時代、留学が盛んで、旧大名家の子弟は、私費による海外留学を行っていました。定謨も明治17年、フランスに渡ります。留学先はパリのゴツファル塾で、補導役として随行したのは子規の叔父加藤拓川(のち外交官、松山市長)。

明治20年、定謨はサンシール陸軍士官学校に入学し、補導役は拓川から秋山好吉にかわります。帰国後、定謨は近衛歩兵連隊に所属しました。

日清戦争では近衛師団長北白川宮能久親王の副官として従軍することになりました。このとき、旧家臣から選んだ同行者の一人が従軍記者の正岡子規で、子規は定謨から刀を拝領したり、清国金州では定謨の宴会に招かれたり一緒にまちを歩いたりしています。子規はのちのちまで久松家に深い恩義を感じていました。

松山に帰住し、松山に尽くす

定謨は明治39年フランスから帰国し、

大正9年陸軍中将で引退しました。大正11年、城山のふもとに別邸としてフランス風の瀟洒な「萬翠荘」を建設します。長いフランス生活で磨かれた彼のセンスを反映した洋館で、陸軍大演習をご覧になるため来松する皇太子の宿舎に利用され、以後、名士たちの集まる社交場などに使われました。

翌12年には、陸軍省所轄であった松山城山と外濠が、久松家に払い下げられることになりました(陸軍用地を除く)。

当時、城山は「松山公園」として松山市が借り受けていましたが、もつと市民の行楽の場にしたかった松山市は、大正10年頃から払い下げの交渉を行っていました。松山市長の加藤拓川は、病身を顧みず陸軍省や大蔵省と掛け合い奔走していたのです。

自らの死期が近いことを悟っていた拓川は久松家に働きかけました。その結果、久松家が3万円で縁故払い下げを受け、



長い歴史を持つ萬翠荘バラ展も、定謨がルーツだといえるだろう。昭和31年、当時の愛媛県知事・久松定武氏が愛媛バラ会を発足させて開催が始まったが、定武氏のバラ好きは、フランス在住の長かった父・定謨がとりわけバラを愛し、身近にバラがあったことが影響したといわれている。今年は第70回の記念バラ展を迎える。写真提供/愛媛バラ会

さらに定謨は維持費として4万円の大金を添えて松山市に寄贈したのでした。市民の喜びはどれほどだったでしょう。旧藩主の子孫の多くは東京を離れませんでした。松山では「久松家顧耕会」を作り農業技術者を雇用して小作人に指導を行ったり、松平定行の隠居所だった東野に果樹農園(のちの県立果樹試験場を作ったりしています)。

藩主の心を持ち続けて松山のために尽力した定謨は、人々から敬愛の念を込めて「お殿さま」と呼ばれたといわれます。戦後、松山城本丸広場北東付近に「伯爵久松定謨顕徳碑」が建立されました。

文/「きらめき」編集委員 もりみつこ

日露戦争ころの国際外交で活躍

ロシアと同盟国だったフランスは、ロシアの動向を探る上で重要な国でした。陸軍きってのフランス語の使い手といわれた定謨は、駐フランス日本公使館付陸軍武官としてロシアの情報収集につとめました。

日露講和会議に臨む外相小村寿太郎を描いた吉村昭氏の小説に、「ヨーロッパ方面では、ドイツに大井菊太郎中佐、イギリスに宇都宮太郎少佐、オーストリアに山梨半造中佐、フランスに久松定謨少佐らの公使館付武官をはじめ陸軍将校たちが、明石大佐を中心に大謀報網をひろげていた」(『ポーツマスの旗』新潮文庫)という一節が出てきます。

明石元二郎は対露諜報活動とロシア革命派の扇動工作を展開して、日露戦争の奇跡の勝利に貢献した一人。明石大佐とともに動いていた定謨は、日本外交の行方を左右する諜報活動の真つただ中に身を置いていたのです。



第31回二之丸薪能 5月8日

松山の伝統芸能、能楽の夕べをお楽しみください

第31回二之丸薪能が、5月8日(水)に松山城二之丸史跡庭園内 特設能舞台で開催されます。

【開催日時】

令和6年5月8日(水)
18時～20時30分頃(開場17時)

【会場】

松山城二之丸史跡庭園内 特設能舞台
※雨天の場合は、松山市民会館中ホールに変更、開演を18時30分に繰り下げます。

【料金】(二之丸史跡庭園入園料を含む)

一般	1,400円
市文化協会会員	1,000円
高校生以下	700円

【演目】

舞囃子(観世流)		小袖曾我
舞囃子(喜多流)		頼政
狂言(大藏流)		鳴子遣子
—火入れ式—		
舞囃子(金剛流)		熊坂
能(宝生流)		竹生鳥

【招待】

松山市内の小学生とその家族を公募で無料招待します。(10組20名程度)

春季生活文化部展示会 4月20日・21日

松山市民文化協会の生活文化部に所属する団体が、洋蘭と帯結びを展示します

色鮮やかで多種揃った「洋蘭」と華やかな「帯結び」で春を感じませんか
ぜひ足をお運びください



【開催日時】

令和6年4月20日(土) 21日(日)
午前10時～午後4時

【場所】

松山市総合コミュニティセンター

【料金】

展示室1
観覧料無料

二之丸大茶会 5月11日・12日

愛媛県茶道連盟松山支部に加盟する7流派のみなさんが2日間にわかれてお点前を披露します
お茶室や新緑薫る中で開かれる野点に立ち寄り、心豊かなひとときを過ごしませんか

【開催日時】

令和6年5月11日(土) 12日(日)
午前10時～午後3時

【場所】

松山城二之丸史跡庭園内の各所

【料金】

お茶券 400円
※二之丸史跡庭園入園料が必要



◎松山市民文化協会の会員になりませんか

松山市民文化協会は、松山市内で活動する各分野の文化団体等の連携や新たな文化の創造を図ることを目的に、市民文化祭や会員主催事業の後援など、各種文化事業を実施しています。多くの文化団体のご入会をお待ちしております。また、協会の目的に賛同、後援いただく賛助会員もあわせて募集しています。お気軽にお問い合わせください。

◎本誌へご意見をお寄せください

本誌に掲載している内容について、ご意見をファクス、お手紙、メールでお寄せください。

〒790-0012

松山市湊町七丁目5番地

松山市総合コミュニティセンター内

松山市民文化協会事務局

☎089(909)8008 FAX 089(921)8242

✉ = matsu-bunkyo@cul-spo.or.jp

小学生俳句教室

8月3日・4日に松山市総合コミュニティセンター・和室で、「小学生俳句教室」を開催しました。「松山俳句協会」の協力により、野菜や風鈴、カブトムシなど季節を連想するものを見て、その場で感じたことや思ったことを表現して俳句を沢山作りしました。最後に短冊に清書したものを皆で選句し、共感して俳句を身近に感じる体験をしました。



小学生俳句教室のようす

第42回松山市民文化祭 美術展

出品作品328点展示
ワークショップやナイトミュージアムも開催

9月29日から10月3日までの4日間（10月2日は閉館）、松山市総合コミュニティセンター・企画展示ホールで開催した美術展は、無鑑査方式により応募作品328点を全て展示しました。

この美術展は、市内の美術愛好家の創作活動発表の場として、また市民が身近な芸術に触れる機会として定着しています。「書」と「版画」部門のワークショップを開催しました。また初の試みとして、1日のみ「ナイトミュージアム」と称して20時まで延長し、夜の幻想的なムードの中、鑑賞いただきました。会期中は923人の来場者があり、市民の力作に見入っていました。



美術展のようす



▲ワークショップのようす▶



めがねも!!
補聴器も!!

ここにある! 見える笑顔 聞こえる幸せ。
アイ・アイ・エー

愛媛に生まれ、育てられ50年。
これからも皆さまと一緒にこの街に。

愛媛県内に10店舗展開中。

「あってよかった。」

↓詳しい情報は↓

この一言がもらえるまで、ご満足いただけるアフターサービスを。



第42回松山市民文化祭 芸術祭を開催しました



●10月15日(日)

- ①創流民謡会
- ②都山流尺八 中予幹部会
- ③愛媛訓兜会
- ④民謡、三味線、風早会
- ⑤東野下獅子舞保存会
- ⑥河野善応寺獅子舞保存会
- ⑦立石純子舞踊教室
- ⑧清の糸道合奏団
- ⑨生田流箏曲地唄三絃 芙蓉会
- ⑩中島築山会
- ⑪長唄 杵家派 弥藤会
- ⑫長唄 松山杵家会 (弥代業社中)
- ⑬愛媛県民踊指導者連盟
- ⑭伊予民踊研究会
- ⑮創作日本舞踊 海棠流
- ⑯日本舞踊河藤流河高会
- ⑰天心流 冠会
- ⑱若柳流 明珠会
- ⑲藤間流 ひな弥会
- ⑳紫雲館吾妻流剣詩舞道総本部
- ㉑泰鳳会
- ㉒伊予源之丞保存会
- ㉓藤間流 藤幸会
- ㉔沢井箏曲院 琴泉会
- ㉕藤間流 歌登美会
- ㉖伊予万歳 みそのべ つばき会

●10月22日(日)

- ①YELLOW STONES
- ②真美フレッシュ体操 武田教室
- ③HULA KUMI EMA
- ④レイアロハグループ
- ⑤Hula Makahou
- ⑥ロケナニ フラストジオ
- ⑦NAO DANCE STUDIO
- ⑧劇団タ刊元気印
- ⑨松山シニア・ジャズメンズ倶楽部
- ⑩ハーモニーアルコ
- ⑪愛媛大学ギタークラブ
- ⑫Estudio La Perla
- ⑬地紙直美フラメンコ教室
- ⑭一色美和フラメンコ GRACIA
- ⑮久保勝鼓フラメンコ・スタジオ
- ⑯Estudio La Fuente
- ⑰ノエミフラメンコスタジオ
- ⑱Feel Dance Academy
- ⑲バレエ・スタジオ・ミーム
- ⑳ひめバレエスタジオ
- ㉑美佳バレエスクール松山
- ㉒アサダ・ダンス・スタジオ
- ㉓森田康二ジャズダンススタジオ

10月15日と22日の両日、松山市民会館大ホールで、協会に加盟する音楽・舞踊・芸能部門の団体による芸術祭を開催しました。49団体約570人が日頃の研鑽の成果を発表しました。会場には、両日を合わせて約1400人が来場。演目が終わるたびに、出演者に大きな拍手が送られていました。

また、恒例の「抽選会」は、1等のみ会場で抽選。残りは後日実施し、当選結果は発送をもって発表に代えさせていただきます。

音楽、舞踊、芸能部門の49団体

約1400人来場

第42回芸術祭

秋季生活文化部展示会

11月11日・12日に、松山市総合コミュニティセンター・コミュニティプラザで、「松山つばき会」、「愛媛バラ会」、「八石之会」、「公益社団法人全日本きものコンサルタント協会愛媛県」、「伊予拓本研究会」の各会員による作品を展示をいたしました。

つばき37点、バラ64点、水石11点、帯結び7点、拓本21点が展示され、いずれも劣らぬ見事な出来栄に、多くの来場者が見入っていました。



【松山の歴史】

(その六)

伊予鉄道森松線居相臨時停車場

伊予史談会副会長

柚山俊夫

森松線居相臨時停車場はどこ？

今回は、昭和四〇（一九六五）年まで営業していた伊予鉄道森松線にあった居相臨時停車場を紹介しましょう。図1は、明治三六年測図の地形図です。森松線が土佐街道の東に沿って並行しています。「いしる」駅があつて、その真西に伊予豆比古命神社があります。

『伊予鉄道百年史』の年表に、明治二八年十二月、「森松線に居相臨時駅（樺神社例祭）設置認可」とあります。さらに年表を読み進めると、明治三四年二月、「森松線石井仮駅（中略）を新設、森松線石井、居相臨時駅を廃止」、

呼ばれていた土佐街道の並

次いで同三四年十一月、「森松線石井仮駅を本駅として存置」と記しています。明治三六年の地形図では、森松線には「いしる」駅しかありません。『伊予鉄道百年史』年表にある居相臨時駅は、どこにあつたのでしょうか。

森松線の建設と臨時停車場設置

伊予鉄道森松線の計画は、明治二五年十二月、愛媛鉄道会社を設立して森松線を敷設するため、現在の国道三三号にあたる「新道」と呼ばれていた土佐街道の並

木敷地を借用したいと県に願ひ出たことに始まります。この願書には、当時の浮穴村長相原軌賢（浮穴村高井）のほか、豊嶋保太郎（浮穴村森松）・門田健吉（原町村麻生）・泉亀吉（原町村宮内）・山下順吉（砥部村大南）が発起人総代として名を連ねています。その後、森松線は、三津^{とがわ}外側（現在の松山市駅）間で運行していた伊予

鉄道が引き継いで工事を進め、明治二九年一月に営業を開始しました。森松線は、立花停車場から南へ分岐し、森松停車場までの約四・五kmの路線です。途中、石井停車場が置かれていました。伊予鉄道株式会社の小林信近らは、通信大臣に提出した明治二八年九月二一日付け「臨時停車場設置につき認可願ひ」で、「石井村大字居相



図1 新道沿いを走る森松線
陸地測量部明治36年測図38年印刷2万分1
「松山」の一部

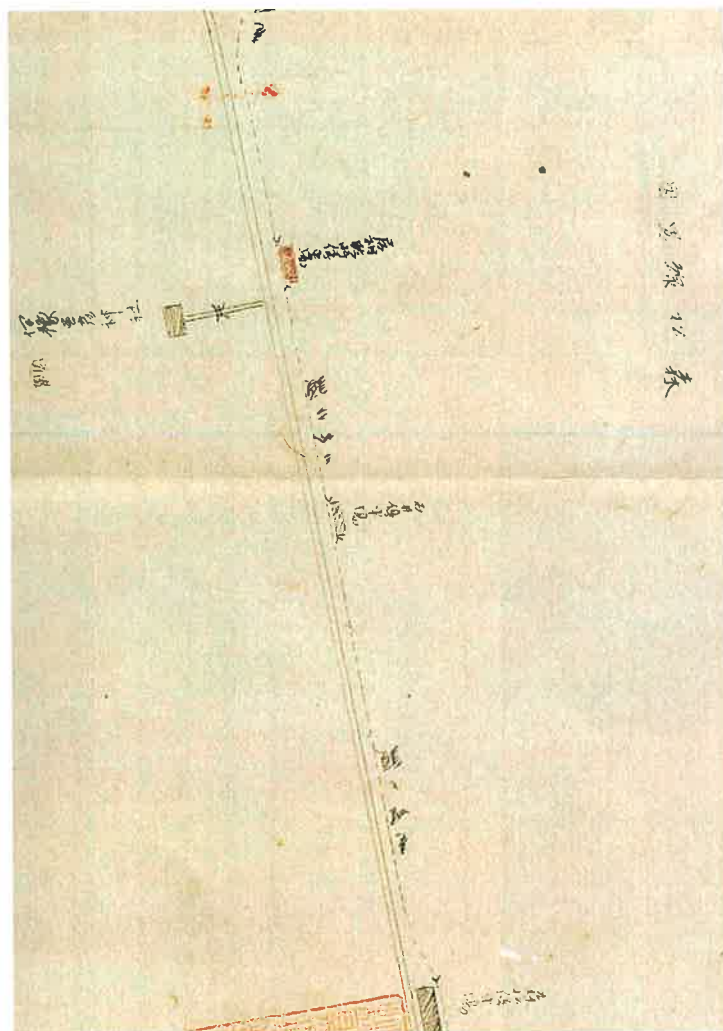


図2 居相臨時停車場・石井停車場・森松停車場
明治28年「臨時停車場設置につき認可願ひ」付図

柚山先生のプロフィール
柚山 俊夫(ゆやまとしお)
●一九六一年今治市菊岡町生まれ
●愛媛大学を卒業、県立高校や県生涯学習センターでの勤務ののち定年退職。現在は県立図書館で文書目録作成に従事。

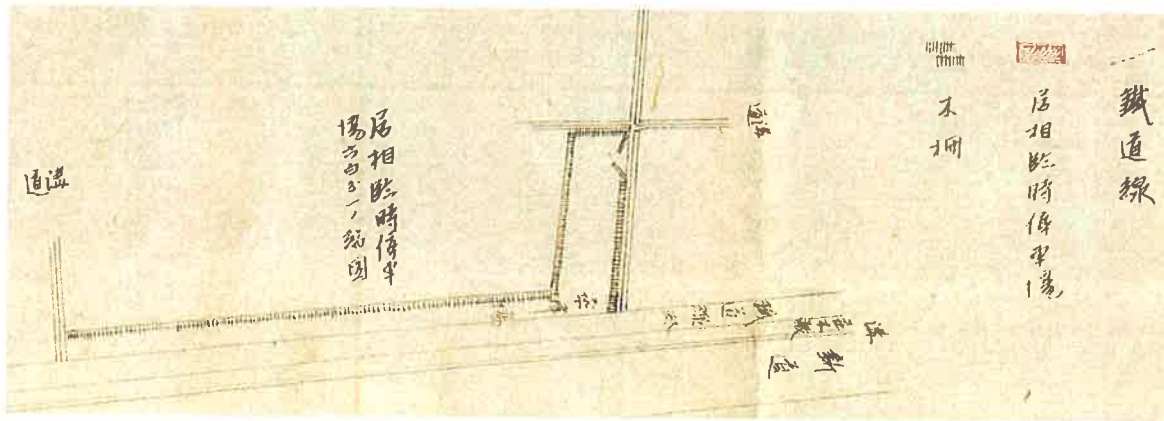


図3 居相臨時停車場の平面図
明治28年「臨時停車場設置につき認可願い」付図

は県社伊予豆彦神社の近傍にある。毎年一月の同社祭典の節、群集する人たちの便宜をはかるため、祭典の数日間限り臨時停車場を設けたい」と願っています。

この願書に添付された図2によると、

「伊予豆彦神社」の参道と土佐街道が交差する場所に「居相臨時停車場」があり、石井停車場はさらに南にあったことが分かります。居相臨時停車場と石井停車場との間に「三拾六鎖」と記載されているので、七二四mほどの距離があったようです。

五年間存続した居相臨時停車場

『伊予鉄道百年史』の年表と、図2とを合わせて考えてみましょう。

森松線工事期間中の明治二十八年九月、祭典群集のため居相臨時停車場の設置を願し認められ、二十九年一月に開業した森松線には、途中駅として、居相臨時停車場と石井停車場の二駅があったのです。三十四年二月に、この二駅をいったん廃止、居相臨時停車場を「石井仮駅」とし、十一月に本駅としたのではないのでしょうか。三十六年測図の図1にある「いしゐ」駅は、もとは、居相臨時停車場であったと想定できます。居相臨時停車場は、明治二十九年一月から三十四年二月まで存続しました。

図3は、居相臨時停車場の平面図（六〇〇分一縮図）です。新道、溝、並木敷、鉄道線路、乗降場などの文字があります。土佐街道の東側にあった停車場を降りると、構内をいったん東に向かい、南出口から西へ進み、伊予津比古命神社（橋さん）へお参りしたのでしょう。停車場の位置は、現在、国道三三号の道路敷地内と考えられます。

世界一のロボットをつくる
八幡浜工業高校 電気技術部

日本の書道部になる
三島高校書道部

ひめぎんは、ゆめぎん。
みんなの夢を応援します。

日本を引張る
早いバスケット
プレーになる
浪田 将斗

小童れを与える
クライマーになる
真鍋 竜

世界に通用する
溶接の
スペシャリストになる
村井 珠夏

愛媛銀行

愛媛訓晃会

音楽部門

～合言葉は「楽しもうね」～

「愛媛訓晃会」は発足25年余りになります。加藤流 三弦道 藤秋会（秋田本部）家元 加藤 訓さとあきに所属し、津軽三味線、民謡三味線、民謡、鳴物等を教えています。

現在30名弱の会員は、高校生から80歳代まで幅広く日々、お稽古に励んでいます。個人レッスン（月3回）、月1回の合同練習（無料）も行っています。

また、毎月のお稽古以外にも松山市文化協会主催の芸術祭や各地のイベントなどに出演させていただいています。



郷土民謡民舞全国大会にて

習い事は基本が大切です。お稽古を重ね、やがて演奏が上手に出来始めると喜びを感じ、楽しさに変わります。

会の育成方針は基本をしっかり教え、あとは誉めて



練習風景



訓晃会発表会のようす

育てることです。代表の加藤 訓さとあき晃さんによると「三味線も民謡も日本の伝統芸能です。大切にしていきたいと思っています。」ということです。



代表
加藤 訓さとあき晃さん

練習所

杉原楽器店2階（松山市大街道）
松山市富久町・松前町・
今治市大西町・今治市別宮町

【問い合わせ先】「愛媛訓晃会」
代表：加藤 訓さとあき晃 090(9779)7514

創作日本舞踊 海棠流

舞踊部門

～いつかみんなで大作を～

「創作日本舞踊 海棠流」は発足して5年になります。会の名前は春の代表花の一つ、ピンクの花が美しいカイドウにちなんでのことだといいます。1回目の立ち上げ会を開催した直後からコロナ禍に遭遇、みんなが集まってのお稽古や、交流もできなくなり苦労しました。

現在25人の会員（うち男性6人）が、海棠鶴夢先生の指導のもと、お稽古に励んでいます。松山市内や久万高原町などの5～6カ所で、週5日間行っています。会では日本舞踊、新舞踊、詩吟舞（扇舞）、民舞など、ひとつのジャンルにとらわれない、幅広い舞踊を教えています。古典的な日本舞踊のかたちをしっかり踏まえながら、今様の若い世代の曲を題材にして、踊りを自由に創作します。この自由に創るところが、「海棠流」の特色であり、喜びです。会のメインイベントは、毎年1年に1回開催する発表会です。1年ごとに松山市と久万高原町で行っています。今年は6月に久万高



練習風景



クラブのみなさん

原町産業文化会館大ホールで開く予定です。「海棠流」を立ち上げてから4回目の開催です。秋に開催される、松山市文化協会主催の芸術祭にも出演しています。

海棠先生によると、「会員一人一人の、こんな踊り、こういったフリをしたいという希望を、力を合わせて一緒に作り上げていくのが、私の喜び。いつかみんなで大作を創りたいものだと思います。」ということです。会員の皆さんはご高齢の方が多いのですが、踊りで体を使うと老けない、お稽古は元気のもとということで、日々、舞踊を楽しんでいます。



代表
海棠 鶴夢さん

【問い合わせ先】「創作日本舞踊 海棠流」
代表：海棠 鶴夢 090(7574)3934

漱石先生も釣りしたのかな…

夏目漱石の小説『坊っちゃん』の中に釣りのシーンが描かれています。場所はこの四十島沖のような気がします。



▲松山市高浜沖に浮かぶ四十島

釣るサイト

釣りちょーさん 検索
<http://tyo-san.co.jp>



子規交交 —しきこもごも—

◎第六回 ある帝大教師との交流

坂の上の雲ミュージアム学芸員／子規庵宇宙の会会員

上田 一樹

昨年、植物学者の牧野富太郎をモデルにしたテレビドラマで、植物学の黎明を支えた帝国大学（現・東京大学）の教師たちが活躍するのを見て、子規が帝大でどのような教師に学んだのか、ふと気になった。

今回は、帝国大学在学時の子規のこと、そして子規がある教師と親しく交流したことを、少し述べてみたい。

子規は、明治十七年九月からおよそ六年間、東京大学予備門（のち第一高等中学校に改称）に学び、二十三年九月に帝国大学文科大学哲学科に入學。翌年二月に国文学科に転科したが、二十五年十二月に日本新聞社に入社し、翌年三月に退学している。

子規在学時の教師陣を『東京帝国大学五十年史』や『東京帝国大学一覽』から見てみると、西洋諸国から招聘したいわゆる「お雇い外国人」や、留学などで当時最先端の学問を修めた人々が教鞭を執っていたことが分かる。

例を挙げると、ドイツ人のブッセ（哲学史、論理学等）やリース（史学・地理学等）、フロレンツ（独語、独文学等）、スコットランド人のディクソン（英語・英文学）、アメリカ人のウツド（英語・英文学）、フランス人のエック（仏語）など、多くの西洋人が語学を中心に様々な分野の講義を担当している。また、文科大学長で社会学者の外山正一（ミシガン大学卒）をは

じめ、ドイツに留学し帝大初の哲学教授となった井上哲次郎、日本最初の心理学者である元良勇次郎（ジョンズ・ホプキンス大学卒）など、各分野のパイオニアとなった錚々たる顔ぶれが並ぶ。しかし、当の子規はというと、帝大入学時には俳人・文学者として世に出



帝国大学法科大学・文科大学
（『東京帝国大学五十年史 上冊』より）

たいという思いが高まっており、大学で学ぶ意欲が薄らぎつつあった。ゆえに講義は休みがちで、試験を放棄して旅に出た結果、追試験を受けられるよう親友の夏目漱石が教師に掛け合った。試験勉強中に次から次へと俳句が浮かんできてランプの傘に書き付けた。教室まで行きながら試験を受けず

に帰宅したりと、勤勉な学生とは言い難いエピソードが伝わっている。日本新聞社の入社面接の時には、編集長の古島一雄に「試験のために学問するのは嫌やになった。井上哲次郎の哲学なんか聞いてをれん」（「古島一雄翁の子規談」と言い放っている。

ここまで書くところ「子規の帝大時代は口クなことなかった」と思うかもしれないが、案外そうでもない。子規は大学生活の中で、菊池寿人や藤井紫影、田岡嶺雲など多くの友人を得ており、さらにある教師と親交を持った。

その教師とは、国文学科講師の高津敏三郎。高津は元治元（一八六四）年、愛知県生まれ。子規より三歳年長。明治二十二年に帝大文科大学和文学科（国文学科の前身）を卒業。翌年、第一高等中学校教授となり、同校と兼任で二十四年から帝大講師、二十六年からは助教を務めた。二十三年には、帝大の同級生で国史学者の三上参次と共著で、本邦初の本格的な国文学史である『日本文学史』を上梓している。のち文部省図書審査官を務め、明倫中学校や大成中学校の校長を歴任した。

子規の「瀬祭書屋日記」には、明治二十五年九月から十月にかけて、高津が三度来宅し、半日俳句談義をしたことや、退学を考える子規に高津が卒業を勧めたことなどが記されている。また、同年十月二十一日には高津が子規

に手紙を送り、国許から松茸が届いたため、松茸飯を食べに来ないかと誘っている。子規も同年十月から退学後の翌年五月にかけて、五度にわたって高津宅を訪問（二度は不在）したほか、二十六年夏頃には、文科大学教授の黒川真頼を紹介して欲しい、と高津に手紙を送るなど、この時期に親しく交流したことがうかがえる。

さらに子規は、高津の紹介で伊藤松宇という俳人を知る。松宇によると、明治二十五年に高津が俳諧の話を書く目的で松宇を訪ねた際、たまたま子規の話に及び、高津の仲介で自身の「富士百句」を子規に送って批評を求めたことが、のちの親交につながったと語っている（「正岡子規君」「中央公論」明治四十年九月号より）。

松宇は当時、仲間と「椎の友」という少数精鋭の俳句結社を作っており、子規は精力的にかねらの活動に参加した。互選による句会、俳誌「俳諧」の刊行、蕪村句の研究など、子規の俳句革新運動は松宇らとの出会いにより大きく進展するが、きっかけは高津と子規の親交に因るものであった。

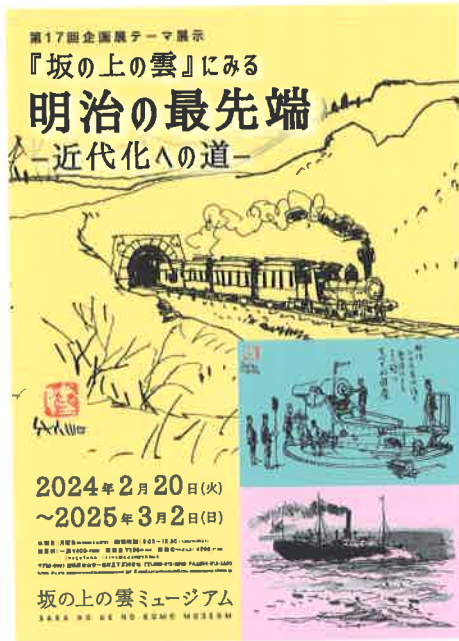
子規の帝大時代は試験に追われ、大学に興味を失い退学するという、負の印象があったことも否めない。しかし、帝大での高津敏三郎との出会いと交流は、のちの正岡子規を形作る上で大きな財産になったと言えるだろう。

坂の上の雲ミュージアム 第17回企画展テーマ展示
『坂の上の雲』にみる明治の最先端
—近代化への道—

黒船来航の衝撃をきっかけに、幕末の動乱を経て誕生した“明治日本”。近代国家として歩み出したばかりの日本は、西洋列強に追いつくために、江戸時代までに蓄積してきた技術や知識に西洋諸国の最先端の科学技術を溶接し、急速な近代化を推し進めていきます。

交通や通信、軍事など、新しい科学技術に対する人びとの好奇心や探求心は、国家を成長させていく原動力になりました。

今回の企画展では、小説『坂の上の雲』の主人公や登場人物らの視点や体験から、科学技術の受容と発展に向き合った、“明治日本”のすがたを伝えます。



アネロイド気圧計
(気象庁気象測器検定試験センター所蔵)

会 期…令和6年2月20日(火)~令和7年3月2日(日)
休 館 日…月曜日(休日の場合は開館)
開館時間…午前9時~午後6時30分(入館は午後6時まで)
観覧料…一般400円、高校生200円、高齢者(65歳以上)200円
中学生以下無料 ※20名以上の団体割引あり
場 所…坂の上の雲ミュージアム(松山市一番町三丁目20番地)
お問い合わせ…坂の上の雲ミュージアム 089(915)2600

伊予銀行

銀行を、
人に合うかたちへ
変えていく。

Better Money,
Better Life.

